

【理事会声明】

希望が失望へ アメリカの未臨界核実験に強く抗議する

原爆投下国である米国，核保有国の英・仏が初参加し，過去最多の74カ国が参列した8月の広島記念式典からおおよそ1カ月後の9月15日，アメリカ政府はネバダ州の核実験場で未臨界核実験「バックス」を実施していたことが明らかになった。

オバマ大統領が「核兵器のない世界の実現」を目指すことを表明し，核廃絶に向けた希望が大きく高まるなか，これを失望へと豹変させる身勝手な愚行と言わざるを得ない。私たちは，核兵器廃絶の世論を無視した米国の実験強行に対し強く抗議する。

米国での未臨界核実験は1997年に始まった。今回は2006年8月以来約4年ぶり24回目の実験で，オバマ政権後初めてである。米エネルギー省・国家核安全保障局（NNSA）は「核兵器の安全性・信頼性を維持するために必要な科学的データを得ることが目的」としているが，実験は核爆発の模擬状態を作り出し，収集した情報は核兵器の維持・改良に使われる。これは，核廃絶に向けた明確な約束を保有国に課した核不拡散条約（NPT）の精神にも大きく反するものである。

私たちは，唯一の被爆国・日本の歯科医師団体として世界の平和を願う人々と強く連帯し，あらゆる核実験に反対し核廃絶へ向けた努力をさらに強めるものである。

2010年10月16日

大阪府歯科保険医協会 第18回理事会